

令和7年度第2回大阪府立青少年海洋センター指定管理者評価委員会 議事概要

1. 開催概要

- 開催日時：令和8年2月16日（月） 15時00分 ～ 17時00分
- 開催方法：現地（大阪府庁別館6階会議室）及びオンライン開催
- 出席者：《評価委員》 蓬田委員長 伊藤委員 大江委員 竹内委員 橋本委員
《指定管理者》 ナンプフードサービス㈱ 梁村代表取締役
大阪府立青少年海洋センター 赤木所長（特定非営利活動法人ナック理事長）
山本副所長

2. 議事概要（凡例 ◆：評価委員 □：指定管理者 ○：施設所管課）

(1). 議題1 施設所管課による令和7年度施設運営業務に係る評価結果の報告

- 施設所管課から令和7年度施設運営業務にかかる評価結果の報告を行う。

【質疑応答】

- ◆評価基準について、計画を上回る優良な実施状況とあるが、どれくらい上回ればいいなど基準はあるか。
○特に基準はない。計画と同等ならA、さらにプラスアルファならSという考えのもと、取組みの状況と、それが結果として表れている部分を評価している。
- ◆S評価について、今年度非常に良かったのは間違いないが、昨年度B評価からいきなりS評価になるのは、あくまで単年度の評価で、今年度に関してはこの評価という理解でいいか。
○その通り。

(3). 議題2 指定管理者による令和7年度施設運営業務に係る自己評価結果の報告

- 指定管理者から、令和7年度施設運営管理業務にかかる結果報告がなされた。

【質疑応答】

- ◆今年度の利用者数の増加は想定内か、想定以上か。
□令和6年度の実績が51,000人だったことから、令和7年度の目標設定である54,000人は想定内だが、それ以上は想定外だった。
- ◆利用料金の値上げによって利用者からクレームはあったか。
□指定管理者としても危惧していたが、1件もなかった。SDGsの観点から、ごみ袋代も徴収しているが、事前のオリエンテーション等を通して理解を得られていると考える。
- ◆飛び込みの利用対応を開始するとのことだが、どれくらい前から利用可能となるのか。

□今すぐに来ていただいても対応できるが、食事は難しい。道の駅等で施設やプログラムのことを知って、カヌーなどを飛び込みで体験していただき、次につながれたらと思う。

◆プログラム開発について、海洋センターのみにとどまらない、岬町や隣の公園との連携はあるか。

□せんなん里海公園とは年に2回、公園のフェスタに参画している。とっとパークや産直市場よって等々の近隣施設には海洋センターの紹介パンフレットを置くなど、連携を図っている。大阪府で委託した広報動画では、岬町付近の観光スポットをコースで紹介しており、その一部として海洋センターも紹介しているため、さらに連携を深められるかと思う。さらに、岬町ウォークと関平マラソンを合体して海洋センターで実施することになるなど、岬町とも連携しながら事業を行っている。

◆利用者数が増えると職員の負担も増え、安全面の心配はないか。飛び込み利用は1日の人数制限はあるのか。

□例えば、今ではライフジャケット着用の説明にも職員が1人ついているが、それをビデオ化して事前に利用者に見てもらい、乗船前のチェックから職員で行うことで、職員の負担軽減を図る。また、今後平日の飛び込み需要にも対応できるよう、海プログラム専門のインストラクターも募集開始している。

◆利用者人数増について、内訳は。

□団体構成が変わったというよりは、部屋の割り振りを工夫し、今まで予約の重複でお断りしていた団体をすべて受け入れたことが要因。一部の中学校の利用が増えたことも要因。

◆3月に1500人利用予定があるが、閑散期にどう集客し、どのようなプログラムを実施するのか。

□3月については通年利用いただいている団体に、数団体の予約が加わった状態。ただ、予約人数に対して実人数が大きく下回ることもあるのが実情。3月は学校等の団体利用は少ないため、家族をはじめとした個人客にどれだけ来ていただけるかが課題と認識している。

3月はいかだ以外の海のプログラムを実施可能。

◆インストラクターを募集する一方で、人件費の削減とどう折り合いをつけるのか。

□利用者数が増えれば収入も上がるため、それを還元するのがインストラクターの人件費と考えている。利用者数増による安全面の課題もあるため、インストラクターの制度に初めて踏み切った。採用は地元の方を想定しているため、地元との連携にもつながると思う。

◆収入増について、利用料金値上げのほか、その他収入も上がっているが、要因は。

□その他収入はまきやクラフト類の販売等であるため、利用増に伴うもの。

◆SNSで情報発信する上で注意されていることはあるか。

□SNSに投稿する際は職員2名でダブルチェックする体制をとっている。

◆津波注意報が発生した際にどのような対応をしたのか。危機管理マニュアル等は定期的に見直してい

るのか。

□8月に津波注意報が発出された際、来所できなかった学校については別日に振替することで対応した。危機管理マニュアルに基づき、避難訓練を数回、うち1回は地元の小学校と連携して、カヌーの途中で津波が起こった想定での避難訓練を実施している。地震火災も含めて、職員やリーダーの訓練も実施している。

◆資料7リーダー研修計画や資料15危機管理マニュアルに関して、来年から日本版DBSが施行されるなど、性加害の危機管理の必要も出てくるかと思うが、何か工夫はされているか、これから取り組み予定はあるか。

□日本版DBSについて、子どもの安全を守るという趣旨から、新しいボランティアリーダーも含めて、照会に係る同意書の内容を検討する必要があると考えている。

(4). 議題3 評価委員からの提言

◆利用者が増加していることは評価できるが、閑散期の集客については課題が残るため、引き続き取り組んでいただきたい。

◆利用者アンケート集計結果について、利用者からのすべての意見に対する対応または検討内容がわかるよう記載いただきたい。意見だけではなく、満足度の低い回答があった際も、可能であれば個別に意見を聞いたり、振り返る時間を設けたりするなど、対応が必要と考える。

◆今年度の収入増分をトイレの洋式化に充当することは評価できる。引き続き府と協議しながら、必要な補修や整備を進め、利用者サービスに還元してほしい。

◆アンケートについて、より多くの意見からニーズを拾い上げるため、2次元コードと紙のメリット、デメリットを考慮し、回収率を上げるためのよりよい策を検討することが望ましい。利用者だけではなく、地域からのニーズも把握し、利用者対応やプログラム開発、連携強化等に活かしてほしい。

◆利用者の増加に伴い、より一層、受入れ体制を充実させ、安全面には注意されたい。

◆指定管理者の財政状況について、海洋センターの直接的な運営ではないものの、給食業務やプログラム提供に支障が出ないよう、引き続き立て直ちに努められたい。